

# 震災復興メモリアル全体の基本理念について

---

# 震災復興メモリアル全体の基本理念について

## ○ 震災復興メモリアル事業の特徴

### ・ 長期的に続ける事業

⇒次世代に同じ想いを持ち続け、事業を継続してもらうための共通認識が必要

### ・ 関わる主体が様々

⇒横串を通す組織・体制が必要

⇒市民・民間団体等と、行政の協働が必要

### ・ 様々な場所での取組み

⇒それぞれの機能・配置から見た、すみ分けが必要

# 震災復興メモリアル全体の理念について

## 平成26年度の検討委員会のMission

広域的に、未来に向かって伝え続けていくための「メモリアル全体の基本理念」や「各テーマごとの目的や位置付け」などの取りまとめ

### 仙台市の震災復興メモリアル事業全体をつなぐために

本日第7回の論点  
⇒次回案を提示

時間をつなぐ

人をつなぐ

空間をつなぐ

メモリアル全体の  
基本理念

体制・組織  
市民協働

機能配置・拠点

### メモリアルに掲げる4つのテーマ

緑の復興

貞山運河の利活用

遺構保存・モニュメント

震災アーカイブの利活用

テーマごとの  
目的や位置付け

テーマごとの  
目的や位置付け

テーマごとの  
目的や位置付け

テーマごとの  
目的や位置付け

(これまでの意見まとめ)

(これまでの意見まとめ)

(これまでの意見まとめ)

(これまでの意見まとめ)

次回第8回の論点(事務局より案を提示※)

※【資料5-1】 昨年度に提示した4つのテーマごとの意見を整理  
⇒「テーマごとの目的や位置付け」作成の土台に使用

# 震災復興メモリアル全体の理念について

○第一回委員会において全体に関わる論点の整理を行った

【資料5-2】

⇒改めて「震災復興メモリアル全体の理念」として整理・言語化していきたい

○昨年度の委員会での意見より、下記の項目ごとに分類し

全体につながるキーワードを洗い出し【資料5-3】

＜分類の項目＞

「視点」「いつまで」

「誰が」「誰に」「何を（誰を）」「どのように」

⇒特に仙台市の「視点」として重視すべきことを抽出していきたい

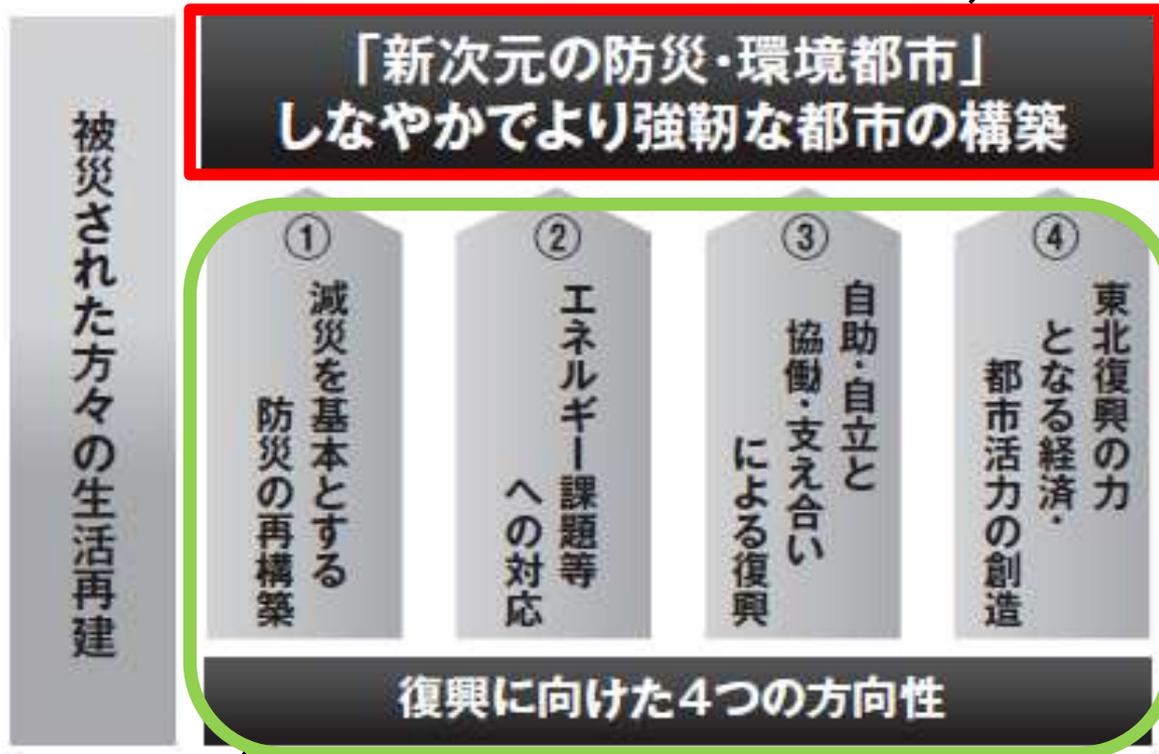
# 震災復興メモリアル全体の理念について（事例）

## ➤ 事例1 仙台市震災復興計画

### I 総論

#### 3 復興に向けて

理念



テーマごとの内容

# 震災復興メモリアル全体の理念について（事例）

## ➤ 事例1 仙台市震災復興計画

### 理念

#### 3 復興に向けて

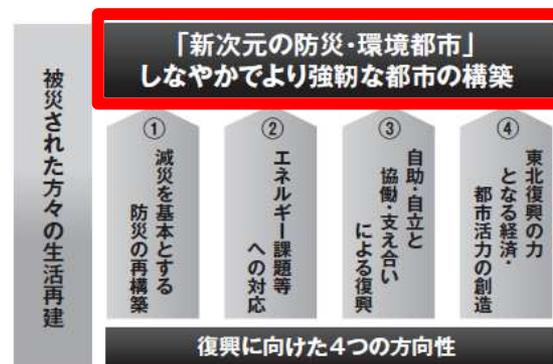
##### （1）復興の基本理念

今回の震災は複合的・広域的な被害を生じ、多くの課題を残しましたが、同時に、私たちが培ってきた地域の絆や自助・共助といった「市民力」が困難を乗り越える重要な力となることを明らかにしました。

100万市民一人ひとりの貴重な経験や厳しい状況を支えた知恵を結集し、「ともに、前へ」歩みを進めていく。それが私たちの目指す復興の姿です。

これまでの防災対策や都市エネルギーのあり方を根底から揺るがした今回の震災。その復興に際しては、過去の延長にとらわれることなく、柔軟な発想に基づき、明らかになった諸課題に対処していくことが極めて重要になります。

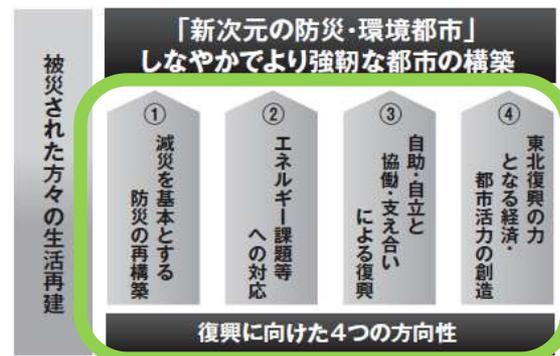
このことを踏まえ、減災を基本とする多重防御の構築や、エネルギー対策など環境政策の新しい展開に向けた取り組みなどを総合的に推進しながら、「新次元の防災・環境都市」を掲げ、しなやかでより強靱な都市の構築に向けて、多様で幅広い市民力とともに、本市の復興を力強く推進していきます。<sup>6</sup>



# 震災復興メモリアル全体の理念について（事例）

## ➤ 事例1 仙台市震災復興計画

### テーマごとの内容



### (3) 復興に向けた4つの方向性

犠牲となった方々の思いを忘れることなく、一日も早い復興を進めると同時に、震災で得た教訓を糧とした先駆的な取り組みを進めながら、次の世代に伝えていくことは、私たちに課せられた重要な責務です。

このような責務を果たすため、東日本大震災の総括を踏まえながら、復興に向けて次の4つの方向性を重視して取り組みます。

#### ①減災を基本とする防災の再構築

自然を制御する「完全な防災」を目指すのではなく、自然災害から人命を守ることを最重視し、災害時の被害を最小化する減災を基本として、防災のあり方を再構築します。

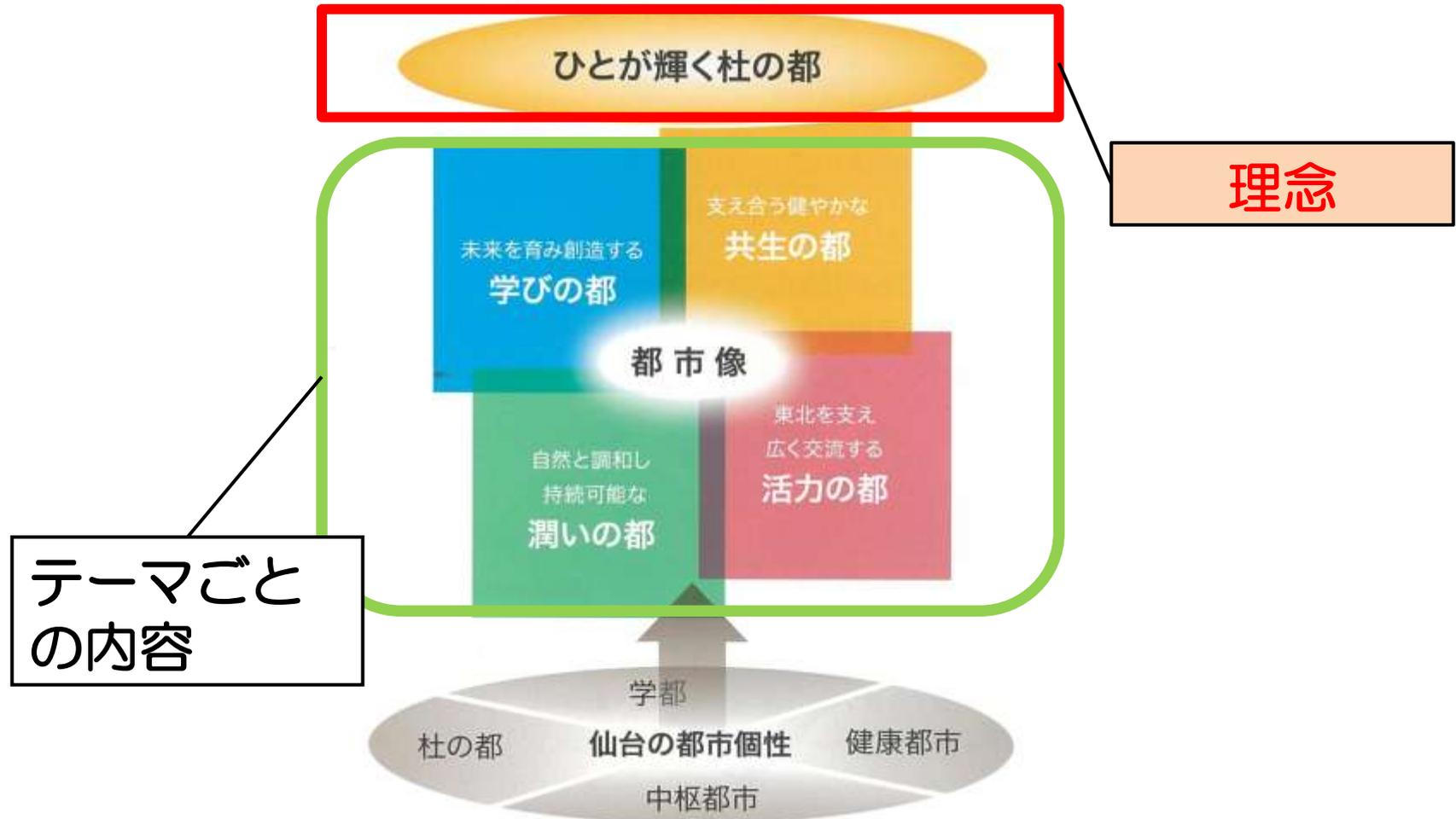
津波対策については、まず「逃げる」ことを重視し、複数の対策により命を守る多重防御システムの構築に力を注ぎます。

さらに、すべての市民が危機への適応能力を高めるような自助の風土づくりや人づくり、災害に強い市街地の形成や災害対応力の強化などの取り

# 震災復興メモリアル全体の理念について（事例）

## ➤ 事例2 仙台市総合計画

仙台の都市像「ひとが輝く杜の都・仙台」



# 震災復興メモリアル全体の理念について（事例）

## ➤ 事例2 仙台市総合計画

### 3 仙台の都市像

理念



私たちは、仙台が培ってきた都市の個性を、市民と行政の協働によって発展させた姿として、「誰もが心豊かに暮らし続けることができる都市、『ひとが輝く杜の都・仙台』」をめざします。

この理念のもとに、都市個性に対応した4つの都市像を掲げ、市民と行政とが共に実現に取り組み、次の世代へと希望をつないでいきます。

#### ◆未来を育み創造する学びの都

ー未来につなぐ多様な価値や個性を創り続ける輝く学都ー

◇学びの場にあふれ、生涯にわたり楽しく学ぶことで市民力が広がり、一人ひとりの心の豊かさにつながるまち

◇世界中から人材や情報が集まり、知的資源の集積と交流から新たな価値を生み出すまち

テーマごとの内容

# ご議論いただきたいこと

---

## 【論点1】

- 仙台市として特に重視すべき視点は何か

## ■4つのテーマごとの意見取りまとめ＜第6回委員会（平成26年3月24日）資料を集約＞

### メモリアル全般について

#### ■考え方

- ・仙台から広域的に発信するためのもの
- ・被災した方々の心が一つに向かっていけるもの
- ・我が事として震災の記憶を伝えることができるもの
- ・思いを共有するもの（被災者、支援者・・・）
- ・広域的に長いスパンで継続して伝えていく活動全体がメモリアルに
- ・目的、対象、手段の整理

#### ■時間軸

- ・時間軸の捉え方（幅、タイムスパン）を明確に
- ・時間、歴史をどの様に捉えるか

#### ■市が設定した4つのテーマ以外の意見

- ・仙台市が先頭を切って3月11日を休みにして、考える日とする
- ・震災後は文化、スポーツの活動が大きな励みとなった
- ・音楽の力、あるいは広い意味での文化、芸術の力というのがより大きな推進力になる
- ・スポーツでも音楽でもアートでもNPOなどがコミュニティとして使えるような溜まり場があれば、何世代の人たちとの交流も生まれるし、何かあった時にはそこに逃げればよいという防災の拠点にもなる
- ・被災地の祭りなどソフト面のメモリアルも重要
- ・音楽の力、文化、芸術の力を使ったメモリアルホールの実現

### 《テーマ1》東部地域における緑の復興について

#### ■全体的な視点

##### 【ビジョン】

- ・市民の人との共有するビジョンを打ち出す
- ・失ったものを再生したという物語を共有できる仕組み

##### 【位置づけ・シンボル】

- ・生活の中で使うということを含めてシンボルとしての位置づけを明確に
- ・何かしらのシンボルなどが組み込まれる必要がある

##### 【継承・伝承】

- ・なぜやるのかを数世代に渡ってしっかりと伝える
- ・震災前の生活を積極的に活用して記憶を後世に継承

#### ■景観

- ・都市近郊の良好な水田景観として再生
- ・景観の再生に配慮した緑の復興

#### ■公園・緑地

##### 【創出】

- ・木を植えて育てていくプロセスを共有すること自体が記憶をつくる
- ・自分が植えたところが具体的にみえる仕組み

##### 【活用】

- ・海岸公園の整備構想と連携した取り組みを
- ・出来あがった緑地をどう使うのか検討
- ・出来あがった緑地が愛されて使われる場所とするため、利用のイメージを共有しながらデザインする
- ・つくったものを使う、楽しむ仕掛けづくりが必要

##### 【管理】

- ・メモリアルとして残せる樹木については、パブリックなサポートを入れるなど制度の検討が必要

#### ■居久根

##### 【現状】

- ・民有地の居久根を維持するのは困難

##### 【再生】

- ・農業のあり方と密接に結びついた居久根の再生
- ・擬似的なものとするか、農村生活の再生まで踏み込むのか
- ・今後はパブリックな空間にどのように居久根の景観を復活させるか、それを市民が共有できるものにするかを検討する方が有効
- ・被災した方が住めなくなった故郷と関わりを持つための仕掛けとして居久根の復活を検討

##### 【周辺との調和】

- ・農村集落の生活と居久根の杜ゾーンとの結びつき

### 《テーマ2》

#### 歴史的資産としての貞山運河の利活用について

#### ■全体的な視点

##### 【伝えていくうえでの考え方】

- ・後世に伝えていくためのシンボリックな取り組み
- ・無くなって初めて分かる思いを未来に繋げる
- ・若い世代の人達と一緒に活動することで次の世代にもつなげていく
- ・歴史的背景を踏まえて震災のことを伝え、学ぶ
- ・後世に伝えていく術をきちんとつないでいく
- ・住民生活や地域の歴史が未曾有の規模で破壊されたことを伝承する仕組み

##### 【検討にあたって】

- ・時間をかけて形成し、成長していくというビジョンをコンセプトワークの段階から盛り込んでおく
- ・メモリアルは、誰のために、何を伝えていくのか

#### ■保存・活用

- ・スポーツ・レジャーに限定しない利用
- ・400年続いた暮らし・生業の痕跡をどのように残していくのが重要
- ・海や山が身近にある恵まれた地域特性を上手に取り込める仕掛け
- ・荒浜小学校の保存と連携した仕掛け
- ・貴重な生態系の活用も重要
- ・残っている木々の保存

#### ■参加・連携の仕組み

- ・市民の知恵等ソフトの部分もうまく組み合わせしていく
- ・市民やNPOなどいろいろな人が関わられるような共助・協働の仕組み
- ・市民が積極的に提案できる仕組み
- ・パブリックアートとしての仕掛けやアーティストとの連携
- ・地域に根付いていた住民の思いを組み入れた仕組み

#### ■施設・設備の整備

- ・憩いの場所となるような飲食店を周辺に配置して欲しい
- ・津波が来たところが分かる目印の様なものを組み込んで後世の人達に伝えていくことができればいい
- ・避難施設を整備する際には、背景となる仙台平野を考慮したデザインの提案にしてほしい
- ・アプローチ道路や既存市街地との接続等、周辺道路の検討が必要

#### ■ソフト的な取り組み

- ・スポーツ・レジャー、記憶の継承、美しい景観、豊かな環境という4つの項目をつなぐことができる3.11ツアーの様なものを開催
- ・運河と震災の両方を歩きながらガイドしてくれる人がいるといい
- ・利活用は完成する前から始められる、今出来ることの情報提供も必要（例えば、工事の様子を見学できる安全な場所等）

#### ■その他

- ・後に被害状況を俯瞰して見る事ができる様に、仙台市や宮城県で定期的に航空写真を撮り続けて欲しい
- ・被災した人たちがどのように感じるか不安

### 《テーマ3》

#### 震災アーカイブの利活用について

#### ■全体的な視点

- ・物に対する記憶や、人の思いがアーカイブされないと後世に伝わらない
- ・記憶と記録は両輪であり、片方だけでは伝わらない
- ・記録したうえで、記憶を何らかの形で定義づけることが必要
- ・遺構が見える場所の近くにアーカイブがあると有効
- ・住民だけの意見ではなく日本全体で考えて判断が必要
- ・記録だけではなく、感情なども加え残す必要がある
- ・色々な使い方や作り方など相乗効果が出るような提案を検討

#### ■拠点

- ・常駐のスタッフがいる拠点が必要
- ・伝える場所・感じたものを置いておく場所が必要
- ・長く伝えるためには拠点や語る場、作業をする人が必要

#### ■方法・手法

- ・フィクションには事実以上に大きなインパクトを持って迫力があるので、集めて、参照できるようにしておくことが必要
- ・時間の経過とともに変わる被害状況を記録に残す
- ・3月11日の出来事だけでなく、それ以降の出来事も対象とする長い時間をかけ継続したプロジェクトの検討
- ・域外の方への発信方法の検討
- ・写真などのデータを自由に使える仕組み
- ・震災遺物もアーカイブして実在の物として保存
- ・絵本や絵、彫刻などフィクションも必要
- ・震災を体験していない方が当時の状況が分かるような仕組みが必要
- ・津波の遡上ラインに桜を植えるなど、後でも目印になるようなものが必要
- ・メモリアルキャラバン、被災状況を伝える観光

#### ■長期的な伝承・継承

- ・アーカイブは保存しておくだけでは伝わらなくなるので、200年位のスパンで持たせる仕組みを検討
- ・数十年先の将来の市民の目線で継承することを検討

#### ■参加の仕組み

- ・市民と行政のコラボレーションが必要
- ・防災コーディネーター等の人材育成と人材データバンクの構築
- ・マスメディア等へのアーカイブの連動など積極的な働きかけ

#### ■その他

- ・仙台発の防災減災プロジェクト

### 《テーマ4》

#### 東日本大震災における遺構保存及び東部地域におけるモニュメント整備について

#### ■全体的な視点

- ・シンボライズされたような工夫がないと400年伝わらない
- ・客観的事実はどんな人とも共有できる道具
- ・震災に関する行政文書をできる限り捨てずに残す
- ・慰霊と鎮魂の場所

#### ■遺構保存

- ・なるべく多く残す方向で検討
- ・具体的に物が残るとそこから記憶が蘇る
- ・辛い出来事だったからこそ残さなければならない
- ・残すべきもののリスト化
- ・遺構は「物」として残さなければならないが、その物は400年持たない
- ・遺構保存の議論は広い考え、長い時間を視野に入れた議論が必要
- ・荒浜小学校は被害の大きさを体感する場所として特別で貴重な場所
- ・荒浜小学校は300人以上が無事に助かったという点では希望の象徴

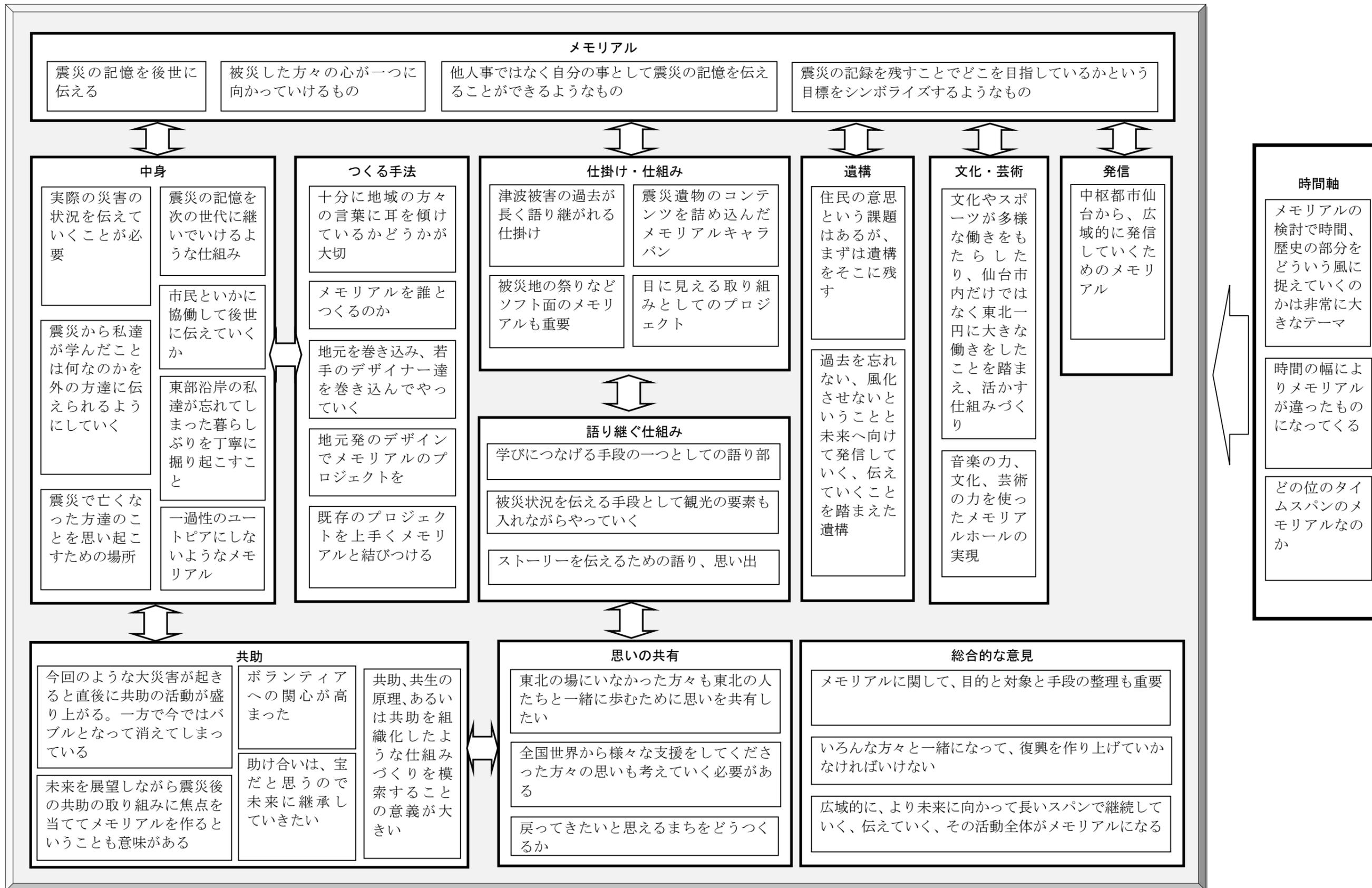
#### ■モニュメント

- ・過去を振り返るだけでなく明日に向かうものとしてのモニュメント
- ・モニュメントは脈絡のない像などはやめてほしい

#### ■その他手法

- ・残せない場合は説明のうえ、資料として残す
- ・語り部のアーカイブも必要

■第1回検討委員会での意見を踏まえた論点の整理について <第2回委員会（平成25年9月24日）資料>



■メモリアル全体の基本理念作成に向けたキーワード整理

